

介護職員初任者研修課程カリキュラム表

科(科目)名	内 容	実施計画	科目番号
(1)職務の理解 (6時間)	①多様なサービスの理解	介護保険サービス及び介護保険外サービス	(1)－①
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解	介護職における仕事内容及び現場の理解、施設の見学	(1)－②
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	①人間と尊厳を支える介護	虐待の定義、身体拘束及びサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイント	(2)－①
	②自立に向けた介護	介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方	(2)－②
(3)介護の基本 (7時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	介護の目指す基本的なものは何か、また家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について、介護職としての共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療、看護との連携の必要性	(3)－①
	②介護職の職業倫理	介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族と関わる際の留意点について	(3)－②
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスク	(3)－③
	④介護職の安全	介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントの在り方、留意点	(3)－④
(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	①介護保険制度	生活全体の支援の中で介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割	(4)－①
	②医療との連携とリハビリテーション	医行為の考え方、一定の要件の下に介護福祉士が行う医行為などについて、ケアマネジメントの意義、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて	(4)－②
	③障害者総合支援制度およびその他制度	介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠	(4)－③
(5)介護におけるコミュニケーション技術 (7時間)	①介護におけるコミュニケーション	共感、受容、傾聴的態度、気付きなど、基本的なコミュニケーション上の要点、家族が抱きやすい心理や葛藤の存在に配慮した介護の相談援助の重要性、言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点	(5)－①
	②介護におけるチームのコミュニケーション	介護における記録の機能と重要性	(5)－②
(6)老化の理解 (6時間)	①老化に伴うこととからだの変化と日常	加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について	(6)－①
	②高齢者と健康	高齢者に多い疾病の種類とその症状、特徴、治療、生活上の留意点及び高齢者の疾病による症状や訴えについて	(6)－②

(7) 認知症の理解 (6時間)	①認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方	(7)－①
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	健康的な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違い、認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性及びそれに影響する要因	(7)－②
	③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方及び介護の原則、同様に若年性認知症の特徴、認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防、認知症の利用者の生活環境の意識やあり方について	(7)－③
	④家族への支援	家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて	(7)－④
(8) 障害の理解 (3時間)	①障害の基礎的理解	障害の基本的概念	(8)－①
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	障害の概念とICF、各障害の内容・特性及び障害に応じた社会支援の考え方	(8)－②
	③家族の心理、かかわり支援の理解	障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方	(8)－③
(9) こころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	【ア 基本知識の学習（10～13時間）】		
	①介護の基本的な考え方	生活支援技術としての介護の基本的な考え方	(9)－①
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	人の記憶の構造や意欲等と支援の関係	(9)－②
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	人体の構造や機能と行動の関係	(9)－③
	【イ 生活支援技術の講義・演習（50～55時間）】		
	④生活と家事	家事援助の機能と基本原則に基づいた生活支援	(9)－④
	⑤快適な居住環境整備と介護	利用者の身体の状態に合わせた介護と環境整備	(9)－⑤
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護	(9)－⑥
	⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器や様々な車椅子、杖などの基本的な使用法、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみの理解と、指示に基づいた介助	(9)－⑦
	⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	食事に関するこころとからだのしくみの理解と、指示に基づいた介助	(9)－⑧

	⑨入浴、清潔保持に関連した ところとからだのしくみ と自立に向けた介護	入浴に関するところとからだのしくみと、指示に 基づいた介助	(9)－⑨
	⑩排泄に関連したところと からだのしくみと自立に 向けた介護	排泄に関するところとからだのしくみと、指示に 基づいた介助	(9)－⑩
	⑪睡眠に関連したところと からだのしくみと自立に 向けた介護	睡眠に関するところとからだのしくみと、指示に 基づいた介助	(9)－⑪
	⑫死にゆく人に関連したこ ころとからだのしくみと 終末期介護	ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点、 本人・家族への説明と了解、介護職役割や他の職 種との連携	(9)－⑫
【ウ 生活支援技術演習（10～12時間）】			
	⑬介護過程の基礎的理解	主だった状態像の高齢者の生活の様子、要介護度 や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原 則（方法、留意点、その根拠）	(9)－⑬
	⑭総合生活支援技術演習	要介護等に応じた住宅・施設等それぞれの場面 における高齢者の生活に配慮した生活支援の揭示、 生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによ る機能低下の予防の考え方や方法	(9)－⑭
(10)振り返り	①振り返り	研修全体の振り返り、施設の見学	(10)－①
(4時間)	②就業への備えと研修終了 後における継続的な研修	継続して学習・研鑽することの必要性	(10)－②

※ 実施計画欄には、申請者が実施する研修内容を記載すること。

※ 実習を行う場合は、「(9) ところとからだのしくみと生活支援技術」内の「ウ 生活支援技術演習」内で、12時間以内とする。

※ 実習受入担当者による指導ではなく、研修担当講師による指導の一環として行われる施設の見学は、「(1) 職務の理解」及び「(10) 振り返り」で行うことができる。

